

2025年10月9日

戸田市共創のまちづくり補助金事業報告書（SDGs 応援事業補助）

（宛先）

戸田市長

団体名 JOIN with SIGNAL 実行委員会

代表者職・氏名 会長・栗原 諒

所在地

事業名	JOIN with SIGNAL 走ってつながる、みんなの一步
実施期間	令和7年8月28日～令和7年9月30日

1 事業の具体的内容及びSDGsの成果

2025年9月13日（土）10時～15時、戸田駅西口駅前広場にて「JOIN with SIGNAL」を開催しました。本事業は、走ることを通じて年齢や障がいの有無を越え、人と人がつながる“きっかけ”を届けることを目的に企画されたものです。当日は、未就学児から大人まで幅広い世代が集まり、終日賑わいを見せました。

特に「誰でも参加できる」ダッシュ計測と「競技用車いす体験会」は、年齢や障がいに関係なく挑戦できるプログラムとして高く評価されました。走り終えた子どもたちが達成感に満ちた笑顔を見せたり、悔しさをバネに「もう一回挑戦したい」と話す姿も見られました。

〈20m ダッシュ計測〉

・メインコンテンツである20mダッシュ計測には絶えず参加希望者が並び、記録更新に挑戦する子どもたちの真剣な表情や、それを応援する家族の温かい声援が広場全体を包みました。また、事前申込制の陸上教室では、陸上系YouTuber「ケンちゃん」による実技指導が行われ、子どもたちが普段経験できない専門的なアドバイスを受ける貴重な機会となりました。

→ SDGs 目標3「すべての人に健康と福祉を」: 運動を楽しむことで心身の健康促進に寄与。

→ SDGs 目標4「質の高い教育をみんなに」: 専門家の指導を通じ、子どもたちが新たな学びと成長の機会を得ることに繋がりました。

→ SDGs 目標11「住み続けられるまちづくりを」: 誰もが安心して集える交流の場をつくり、地域の持続可能なにぎわいとつながりを実現。

〈交流ブース〉

・交流ブースでは参加者同士や保護者同士の自然な会話が生まれ、地域コミュニティの新しいつながりづくりにも繋がりました。

→ SDGs 目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」: 地域の多様な人々が交流・協力し、社会的なつながりを強化。

〈競技用車いす体験会〉

・今回は特別企画として「競技用車いす体験会」も実施しました。参加者は実際に競技用車いすに乗って、そのスピード感や操作の難しさに驚きながらも、「すごく楽しい!」「想像以上に速い!」と笑顔を見せていました。子どもから大人まで幅広い世代が挑戦する姿に、多くの声援と拍手が送られ、会場全体が一体感に包まれました。保護者からは「車いすを“特別なもの”ではなく、スポーツの道具として体験できたのが新鮮だった」といった感想も寄せられ、障がいの有無を越えて互いの理解と尊重を深める場となりました。

→ SDGs 目標 10「人や国の不平等をなくそう」: 障がいの有無を越えて誰もが楽しめる機会を提供。

→ SDGs 目標 3「すべての人に健康と福祉を」: 車いすスポーツを体験することで、身体活動の幅を広げ、健康や楽しみを促進。

→ SDGs 目標 4「質の高い教育をみんなに」: 障がい理解や多様性を学ぶ実践的教育の機会を創出。

→ SDGs 目標 10「人や国の不平等をなくそう」: 公平に挑戦できる機会を提供し、すべての人の可能性を広げました。

このように、本事業は JOIN の理念である「共にいることがあたりまえになる」という価値を体感できるイベントとして機能し、参加者一人ひとりの成功体験の積み重ねを通じて、地域住民の交流促進と活動の認知拡大という大きな成果を収めました。

2 事業実施のスケジュール

月 日	内 容
7月下旬	キッチンカー選定、手配
8月上旬	協賛募集・広報物（チラシ・SNS 投稿）作成着手
8月中旬	当日の会場レイアウト・ブース配置などの詳細設計
9月13日(土)	イベント当日開催（10:00～15:00）
9月下旬	支出の精算・補助事業報告対応

3 事業の実施体制

本事業は、JOIN with SIGNAL 実行委員会を中心に運営しました。実行委員会は代表・副代表・会計を軸に、JOIN 職員(6名)、地域ボランティア(6名)、保護者の協力を得て構成しました。(参加者=全体で250~300名程度)

当日の現場運営については、JOIN の土曜勤務職員を中心に受付・誘導・安全管理を担当し、参加者が安心して活動できるよう体制を整えました。また、陸上系 YouTuber「ケンちゃん」による指導・発信力が大きな役割を果たし、地域の教育・福祉関係者との連携も図られました。

このように、福祉・教育・スポーツの多様な担い手が協働する仕組みを実現できたことが、本事業の大きな成果の一つとなりました。

4 反省点と課題

一方で、運営面における課題も明らかになりました。受付・誘導体制が十分でなく一部で待ち時間が発生したこと、また当日の時間進行に余裕がなく、参加者との交流を深める時間が限られてしまった点が反省点です。さらに、天候リスクへの対応は事前に基準を設けていたものの、雨天実施の可否判断や情報発信の仕組みについて改善の余地があると感じられました。

これらの課題に対しては、現時点で以下のような対応・検討を進めています。

- ・受付・誘導については、次回は専任スタッフを配置し、ピーク時にはボランティア等の協力を得る体制を整備することで、待ち時間の解消を図ります。

- ・時間進行に関しては、プログラム構成を見直し、あらかじめ交流や休憩の時間を確保できるよう調整を行います。

- ・天候リスクについては、実施・中止判断の明確な基準を文書化し、事前に関係者へ周知するとともに、SNS や公式サイトを活用した情報発信の仕組みを整備していきます。





《収支報告書》

【収入】

(円)

科 目		予 算 額 ①	収 入 額 ②	比 較 (②-①)	内 訳
補助金・ 助成金	当補助金	50,000	50,000	0	
	その他				
自己資金		3,854	13,951	10,097	
会費（参加費等）		0	0		
利用者負担金(かけっこ)		40,000	20,000	-20,000	かけっこ教室 1,000×20 人
協賛金・寄附		0	10,000	10,000	城北信用金庫
キッチンカー		15,000	15,000	0	3,000×5
合 計		108,854	108,951	97	

【支出】

(円)

	科 目	予 算 額 ①	支 出 額 ②	不用額 (①-②)	内 訳
補 助 対 象 経 費	使用料	11,100	5,750	5,350	戸田駅西口前広場使用料
	謝礼金	45,000	25,000	20,000	カメラマン (15,000 円) DJ(10,000 円)
	保険料	23,854	12,700	11,154	イベント保険
	食糧費	6,000	11,061	-5,359	ボランティアスタッフ 6 名分 (食事 1,000 円+飲料 500 円=1,500 円/人) 当日飲料分 2,359 円
	賃借料	4,000	19,800	-15,800	タープ 2 基 (5,500 円×2) 協賛ボード(8,800 円)
	印 刷 製 本 費	2,185	26,721	-24,238	チラシ印刷費
	消 耗 品 費	10,715	1,919	8,796	ネジ、プラスチックカップ 等
	小 計	102,854	102,951	-97	補助金申請額 : 50,000 円 自主財源 : 52,951 円

